

国内希少野生動植物種

ヤンバルテナガコガネ *Cheirotonus jambar*

沖縄本島北部だけに生息する日本最大の甲虫。成虫は雌雄とも体長が約 60 ミリになり、また雄の前脚が 80 ミリにもなる。この長い前脚が、雄同士の戦いの武器となる。生息地の減少や密猟等により個体数の減少が懸念されている。

【生態】

幼虫はイタジイなどの大径木の幹に開いた樹洞の中の腐食物を食べて3～4年程度の期間をかけて成長し、さらに木の繊維を利用した蛹室の中で蛹になる。雄成虫の出現期は9月頃で、その後の寿命は約1ヶ月足らずだといわれている。雌の成虫は羽化した後も樹洞から出ることはほとんどないようである。生息に適した森林においても、その生息木の密度は1ヘクタールあたり1本に満たないことが明らかとなっている。



ヤンバルテナガコガネの雄

【発見ならびに法による指定】

1983年に発見され、翌1984年に新種として記載された。

1984年に「沖縄県文化財保護条例」に基づき沖縄県指定天然記念物に、翌1985年には「文化財保護法」に基づき国指定天然記念物に指定された。

さらに1996年に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」に基づき「国内希少野生動植物種」に指定された。1997年には同法に基づく保護増殖事業計画（環境庁・文部省・農林水産省）が策定された。

なお、国内希少野生動植物種の違法な捕獲、譲渡し、譲受け、引渡し、引取り、輸出入については、同法第58条により、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金が課される。

【近縁種及びその取り扱い】

中国南部の江西省の山地にいるヤンソンテナガコガネとされ、台湾には同じグループの別種タイワンテナガコガネがすむ。テナガコガネ類は、インドネシア半島から中国四川省にかけて生息しており、いずれも大型で古い時代の生き残りと考えられている。

海外のテナガコガネ類が生きた状態で移入され野外へ逸脱すると、本種の生息地や本種の遺伝的攪乱が心配される。このことから、海外のテナガコガネ類は全て、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」に基づき特定外来生物に指定され、持ち込みが禁止されている。

【密猟事例と生態系に及ぼす影響】

密猟者による密猟が発生しています。ヤンバルテナガコガネが生息していると目星を付けた樹木に足場となるクギを打ちつけ(左写真)、樹洞のある位置まで登り、樹洞内に生息する本種を持ち去った痕跡が確認されている。また、故意に樹幹の中まで穴をあけたり(右写真)、樹木自体を伐採するなどの悪質な事例もある。

本種の生育に適した樹木は、森林の中の限られた大径木に限られ、中には樹齢が 100 年を超えるものもある。また希少な動物を育む巨木は、森林の中でも重要な役割を果たしており、多様な森林生態系を形成するものである。心ない密猟がかけがえのない生態系に及ぼす影響が懸念されてる。



